



国語科において育成すべき資質・能力の整理（案）

平成28年5月31日
教育課程部会
国語ワーキンググループ
資料1(別紙2)会議後修正

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、人間性等

- 言葉の働きや役割に関する理解
- 言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け
 - ・書き言葉(文字)、話し言葉、言葉の位相(方言、敬語等)
 - ・語、語句、語彙
 - ・文の成分、文の構成
 - ・文章の構造(文と文の関係、段落、段落と文章の関係)
- 言葉の使い方に関する理解と使い分け
 - ・話し方、書き方、表現の工夫
 - ・聞き方、読み方、音読・朗読の仕方
 - ・話合いの仕方
- 書写に関する知識・技能
- 伝統的な言語文化に関する理解
- 文章の種類に関する理解
- 情報活用に関する知識・技能

など

国語で理解したり表現したりするための力

【創造的・論理的思考の側面】

- 情報を多角的・多面的に精査し構造化する力
 - ・推論及び既有知識・経験による内容の補足、精緻化
 - ・論理(情報と情報の関係性:共通-相違、原因-結果、具体-抽象等)の吟味・構築
 - ・妥当性、信頼性等の吟味
- 構成・表現形式を評価する力

【感性・情緒の側面】

- 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
- 構成・表現形式を評価する力

【他者とのコミュニケーションの側面】

- 言葉を通じて伝え合う力
 - ・相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解
 - ・自分の意思や主張の伝達
 - ・相手の心の想像、意図や感情の読み取り
- 構成・表現形式を評価する力

《考えの形成・深化》

- 考えを形成し深める力(個人または集団として)
 - ・情報を編集・操作する力
 - ・新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力
 - ・新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力

- ・言葉が持つ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉が持つ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度
- ・言葉を通じて、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団としての考えを発展・深化させようとする態度
- ・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にすることで自覚するとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通して、心を豊かにしようとする態度
- ・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度
- ・我が国の言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度
- ・自ら進んで読書をし、本の世界を想像したり味わったりするとともに、読書を通して、未知のことを知ったり、疑似体験したり、新しい考えに出会ったりするなどして人生を豊かにしようとする態度

